

SVC070-P22

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

簡易な降灰分布推定手法による2011年1月霧島山(新燃岳)噴火に伴う降灰範囲の推定

Simple approximation method for prompt recognition of ash fall distribution: A case study at Shinmoe-dake Volcano

木佐 洋志^{1*}, 山越 隆雄¹, 石塚忠範¹, 瀧口茂隆², 田島 靖久³

Hiroshi Kisa^{1*}, Takao Yamakoshi¹, Tadanori Ishizuka¹, Shigetaka Takiguchi², Yasuhisa Tajima³

¹(独)土木研究所, ²国土交通省, ³日本工営(株)

¹Public Works Research Institute, ²Ministry of Land, Infrastructure, Transport, ³NIPPON KOEI CO., LTD.

一般的に、火山噴火等により火山灰等の堆積物が厚く堆積した渓流においては、通常よりも小規模の降雨においても土石流が発生する危険度が高まるとされている(山越、松岡他、2010)。

そのため、噴火後には火山周辺の渓流における降灰分布を迅速にかつ安全に把握する必要がある。しかしながら、火山噴火活動が激化した場合や、降灰後の最初の降雨までの期間がほとんどない場合においては、従来の現地調査を主体とする方法では、安全性、迅速性が確保されるとは限らない。

そこで、現地調査等により得られる少ない観測点数を用いて、面積と堆積厚の関係の経験則(早川、1985)にもとづき、降灰がより厚い火口周辺～山間部における降灰分布を推定する簡易な降灰分布推定手法を提案するとともに、新燃岳2011年1月の噴火に適用した結果を報告する。

キーワード: 降灰分布の推定, 等層厚線, 少ない観測点, 霧島山(新燃岳)

Keywords: prompt recognition of ash fall distribution, isopachs, Shinmoe-dake